

ありまふじ里山だより

Vol.18

『ありまふじ里山だより』では、棚田里山エリアの自然の様子や里山保全に向けた取り組みについてご紹介します。Vol.18は今年最後の里山の様子と来年の新たな取り組み内容についてお届けします。



今年最後の里山

木々の葉はすっかり落ち、幾重にも枝分かれした梢が空高く伸びています。

里山に入れば静かな雰囲気の中、さまざまな鳥たちの鳴き声が木々の間から賑やかに聞こえてきます。

春になるとトンネル状に見事に咲き誇るコバノミツバツツジが、冬芽でじっとその時を待っています。

かつては木々が生き茂り、どこが道かわからず歩くのも大変だった里山が、少しずつ手が入り、里山らしい心地良い場所へと生まれ変わりつつあります。

10月に子どもたちが作ってくれたエコスタックもさまざまな虫たちの住処になっていることでしょう。

この1年の皆様のご協力に感謝しつつ、来年も里山保全の取り組みを続けていきます。

来年の新たな取り組み

来年はこれまでの活動に加えて、棚田と里山の間にある藪化してしまった耕作放棄地を畑に再生できないかと計画中。これからも里山の暮らしが感じられる風景をつくっていきます。